

V. 特記事項

1. 「The Learning Station CROSSLIGHT」

CLは、平成31(2019)年3月竣工した本学校舎の呼称であり学生・TS・MSの公募によってその名称が決められた。命名に際しては、外光(light)を多く取り込み、人々がこれまで以上に交流(交差)する(cross)という校舎の特長に加え、キリスト教のシンボルである十字架(cross)と本学のスクールモットー「光(light)の子として歩みなさい」への想いが込められている。また、本施設のコネプトは下記の通りである。

Concept 1「光と風と人が交錯するオープンな空間」：教室や廊下の区別を極力なくし、各空間を連続体としてゆるやかに連ねた設計。活発な導線を生み出し、人と人との多様な交流の実現をめざしている。また、自然の光や風を取り込めるように設計された心地よい空間デザインとなっている。

Concept 2「自分で考え、新しい価値を生み出していく力を育む場」：将来の予測が困難な時代を生き抜くためには、すでに存在する「正解」を見つけるのではなく、自分で考え、新しい価値を生み出していく力が求められる。本校舎は学生たちのそうした力を育むため、体験・経験を重視した学びを可能にする。

Concept 3「教職協働のフリーアドレスオフィス」：「教職協働(TSとMSが一体となって学生を育てる)」の観点から、校舎1階のフリーアドレスオフィスで、TS・MSがともに学生を育てる。

以上のコンセプトで設計・施行された本校舎であるが、令和元(2019)年11月の本学「政策レビュー」において、本学TS・MSより下記のような発表が行われ、学生の教育面やTS・MSの働き方等において一定の成果が見られている。

【政策レビューでの主たる評価項目】

- ・授業における変化(TS アンケート)：①プレゼンの機会や方法、②GWの機会や方法、③授業の展開や方法/空間の設定や方法
- ・働き方における変化(TS アンケート)：①TS間の連絡/連携、②MSとの連絡/連携
- ・働き方における変化(MS アンケート)：TS&MSとの距離が近くなった、②学生との距離が近くなった

また、本校舎竣工後には多くのメディアに取り上げられており、更に、「第15回日本ファシリティマネジメント大賞」の特別賞(教職協働で学生を育てる、大学における新しいワークプレイス)を受賞、また卓越した改革の取組みを対象とする「THEアワードアジア2020」(「THE(Times Higher Education)」)の「組織の活性化」カテゴリにおいて日本から唯一最終選考にノミネートされる等、各方面から注目を集めており、ブランディング面での価値向上等、本学経営的にも大きな影響をもたらしている。